

家族を守れ!家族でチェック! 我が家の防犯診断～住宅編～

今号からシリーズとして家族が犯罪の被害に遭わないようお互いに気を付けるためのチェックリストをご紹介します。今回は住宅を対象とした侵入犯罪から守るためのチェック項目です。前ページの記事にもあるように被害にあったもののうち約5割が無施錠箇所から侵入されていることから毎日のチェックがとても重要です。合計点で我が家の危険度をチェックしてみましょう。



1.日頃からの心構え

- 庭に脚立など足場になる物が出ている。 (7点)
- 夕方になって、洗濯物を出したままにしている。 (6点)
- 長期間留守にする時、新聞などの配達をそのままにしている。 (5点)
- 外出するときは、合鍵をどこかに隠している。 (7点)



2.家の周囲

- 周囲の壁は見通しが悪い。 (5点)
- 壁から2階の窓やバルコニーへの足場になるものがある。 (7点)
- 庭木が周囲からの見通しを妨げている。 (7点)
- センサーライトなどの防犯機器は付けていない。 (6点)



3.家の窓

- サッシ窓には、補助錠をつけていない。 (7点)
- 窓は周囲から見通しが悪い。 (7点)
- ガラスは、防犯性能の高い製品を使っていない。 (5点)
- 門扉の錠に外から手が届く。 (6点)



4.玄関

- ワンドア・ツーロックになっていない。 (7点)
- ドアスコープやドアチェーンがついていない。 (5点)
- ポストは手が差し込める。 (6点)
- インターフォンにカメラ機能がついていない。 (7点)



採点結果

- 00 ~ 19 安心です。引き続き「0」になるように対策を進めて下さい。
- 20 ~ 49 安心ですが、家庭で対策への話し合いを進めて下さい。
- 50 ~ 79 注意が必要です。一度家の周りを点検してみましょう。
- 80 ~ 100 十分注意が必要です。専門家などのアドバイスを受け、早急に対策を進める必要があります。

お役立ち!!一言コラム

子どもの話に耳を傾けましょう

子どもが被害となる事件は、ある日突然起こるのではなく「前兆」があると言われています。ほとんどの犯罪者は、「下見」をし、その中でターゲットや場所を選ぶのです。そこで子どもたちの話に耳を傾けて「怪しい人を見かけた」「変なことが起こった」ならば地域や学校で対策を講じなければなりません。断片的な話であっても多くの情報が集まることにより、危険の全体が見えてくることもあります。



地域で活躍!
頑張っています!

県内で活躍中の防犯団体の方々を御紹介します。現在県内には、約300団体、33,000人の方々が防犯ボランティアとして活動しています。その方々の日頃の活動の様子を紹介します。皆さんのまちで活躍している団体が登場するかもしれません。

山梨県防犯設備士協会

◎防犯設備が充実すると、人間の防犯意識は低下します

「動くな!」「金を出せ!」
サングラスで顔を隠した迫力ある男性2人が突然店に入ってきた。手にはけん銃!
6月某日、甲府市内のコンビニエンスストアで強盗訓練が行われました。迫力のある「犯人」は、県警の警察官。

この日、山梨県防犯設備士協会は山梨県警察と合同でコンビニエンスストアに対する強盗訓練と防犯診断を行いました。同協会は、平成18年に防犯優良マンションや防犯設備を普及させ安全・安心まちづくりに貢献することを目的に設立され、現在法人会員9、個人会員11からなる防犯のプロ集団。

訓練後、その結果を踏まえた防犯診断を実施。「防犯機器が充実すると、人間の防犯意識が低下します。機械に頼りすぎてしまうので、定期的な訓練をお願いします」と同協会防犯アドバイザーの進藤正樹氏の診断結果。

同協会では、警察や地域ボランティアと協力して防犯教室の開催や講演を行い普及啓発に努めており、今後も協会が行う試験に合格し、優れた防犯知識を有する防犯アドバイザーを派遣して一般家庭の防犯診断について数多く実施していきたいとのこと。



訓練ですが、迫力がありました。



店の防犯診断をするアドバイザー進藤氏

甲運地区子どもを守る会 元気な高齢者に期待しています!!



甲運地区子どもを守る会は、甲府市の東部甲運地区で、児童の登下校を見守る活動をしています。

活動の中心は、自治会の有志や地元住民。4年前、全国で子どもが被害者となる事件が多発したことを受け、地元甲運小学校に通う子供達の親たちから「子どもたちが被害者になる事件を防ぎたい」と地元自治会に相談がきました。

そこで自治会では、有志を募って児童の見守り活動を始めました。この活動に次々と理解者が増え、今では毎日午後数時間、下校を見守ってくれる住民も現れました。

こうしてそれぞれの活動をまとめてより大きな力にするため、昨年5月「守る会」が立ち上がりました。会の設立に尽力した佐藤一男会長は、「この会は、住民の理解と子どもたちの安全への願いが一つになって設立することができました。」

「若い住民は仕事等を持っているので負担は掛けられない。会を支えるのは元気な高齢者です。」と住民の皆さんに感謝するとともに支えてくれているメンバーに大いに期待を込める。実際に活動している会員も「見守り活動を続けていると低学年の児童が成長していく姿が見られて嬉しい。」と子ども達から元気をもらって生き生きしています。

今年会員に活動の際着用してもらおうと、「山梨県地域活性化促進事業費補助金」を活用して制作した白いジャンパーを配布したところ、会員からは、「やっと統一されたジャンパーが揃った。みんなのやる気が一段と高まった気がする」と評判は上々だそうです。